

平成30年度 都立学校・学校経営シート

校章		<b>都立園芸高等学校</b> 全日制課程		進路実績 特徴	四年制大学	29%	短期大学	8%	専門学校	37%	就職	16%	その他	10%
		創立110周年 百年の森で学ぶ「緑と食と命の学園」 -Make the next century-			資格取得(農業技術検定・造園施工技術者), 技能五輪大会(造園)4年連続出場 盆栽部(徳川家光遺愛の松の管理)、バラ園プロジェクト、三宅島緑化プロジェクト、女子バスケット、女子バレー、硬式テニス、軟式テニス									
基	在 在 地	〒158-8566 世田谷区深沢五丁目38番1号		電話 番号	03-3705-2154									
		アクセス			(1) 東急大井町線等々力駅より徒歩15分 (2) 東急田園都市線桜新町駅より徒歩18分 (3) JR渋谷駅より東急バス等々力駅行きで40分園芸高校前下車3分									
本	学 科	農業科(園芸科、食品科、動物科)												
		在 生 徒 数	422名(男子149名、女子273名)											
情	教育課程の特徴		体験型専門実習、習熟度別授業(国・数・英)、朝学習(週5日)、課題研究											
		報	ホームページ	<a href="http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/</a>		自律経営推進予算 30年度(単位:万円)								
そ の 他	緑豊かで広い校地(260㎡/人)			校 服	制服	男子:ブレザー(灰)、ネクタイ 女子:ブレザー(灰)、リボン								
	基	入 学 者 選 抜 情 報	募集人員			推薦:園芸21名・食品10名・動物10名、一般:園芸49名・食品25名・動物25名								
本				28年度入学生	推薦	園芸	1.38	29年度入学生	推薦	園芸	2.19	30年度入学生	推薦	園芸
	食品	4.50	食品			3.10	食品			2.60				
情	報	学 力 検 査	動物	2.70	学 力 検 査	動物	6.09	学 力 検 査	動物	4.60	学 力 検 査	動物	2.68	
			計	2.46		計	3.56		計	2.68				
報	そ の 特 徴	推薦・一般とも男女を問わず												
		主 要 学 校 行 事	創立110周年記念式典 園芸展(文化祭)、体育祭、下田農場宿泊実習、課題研究発表会											

目指す学校 我が国最初の園芸学校として「勤勉 勤労」の校是のもと、「名実ともに日本を代表する農業の専門高校」を目指す。

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目 標 ①	◆生徒の学力向上 (学校テーマ:生徒に力(学力の3要素)をつけさせるよう「授業を磨く」) 校是「勤勉・勤労」を学習指導全体を通して体得させる。 ①「基盤学力」としての普通科教育を充実させる。 ②「朝学習、学力スタンダード」を導入して高校教育の質を担保する ③「ユニバーサルデザイン」と「アクティブラーニング」を教員研修のテーマとして各自の授業を磨く。	校是「勤勉勤労」を再確認し、教育課程改善に着手した。この方針に従い、登校時間を15分早め、全校での朝学習を開始し5年が終了し学校全体の遅刻者が減少した(1日当たり0.61人)。生活態度、授業態度も落ち着きが出て、学力も向上した。「コツコツ勉強する」教育課程が完成。95%の生徒が早く登校して学習に励んでいる。時間管理能力を育成するために全校生徒に手帳(スコア手帳)を持たせた。生徒の自己管理能力の一層の育成が課題である。ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業では、板書字の大きさ、色、位置などに配慮した。次年度も継続して展開する。	
目 標 ②	◆専門教育 (個々の能力を最大限に伸ばす) ①「基盤学力」の上に「専門の力」を育成する。地域(世田谷、産業界)と連携し、地域資源や人材を特別活動や授業の中に取り入れ、生徒を育てる。 ②「技能スタンダード」を導入し専門の質を担保する。 ③「農業技術検定」を受験させ、受験学習を通して専門の質を担保する。	類型ごとの少人数学習、市民講師等による専門指導の強化を図った。技能五輪(造園大会)は今年で出場7年目を迎えた。他にも造園技能士2級5名、3級26名、調理師4名、製菓衛生師2名、愛玩動物飼養管理士2級11名、準2級11名合格など成果を出した。「都立専門高校技能スタンダード」をベースに自校の「技能スタンダード」を展開した。28年度より全員受験とした「日本農業技術検定3級」では、136名の生徒が合格し、合格率94%となった。さらに農業大学校卒業レベルの2級では3名の合格者を出した。	
目 標 ③	◆進路指導の充実 (社会の変化に対応できる力を高める) ①就職・進学ともに本校の専門に関連した進路先を開拓し、卒業予定者の進路決定率を100%とする。 ②進学希望者の増加に対応した組織的指導を行い、大学・短大進学者数を30%以上とする。	キャリア教育の視点から進路指導を強化した。就職を希望している者は年明けも求職活動を行い100%就職できた。さらに教員による職場訪問も安定し、企業理解が深化した。 大学進学者は27.2%と昨年度(36.6%)より減少した。農業系大学進学者も15名(昨年22名)と減少したが、国立大学への進学者を出すことができた。今年度は専門学校を希望する生徒たちが増加する傾向があった。朝学習、学力及び技能スタンダードの取組で、生徒に自信が付き、上級学校への進学傾向は現れてきたと分析できる。	

数 値 目 標	今年度の数値目標の内容	27年度		28年度		29年度		今年度		31年度	32年度	33年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	生徒の学校定着【勤勉勤労を堅持しつつ、退学者(人)を減少させる】	○人	5	3	5	2	5	2	5	3	5	5
目標②	生徒の安定生活【問題行動発生件数(件)を減少させる】	○件	3	1	3	3	3	2	3	2	3	3
目標③	生徒の進学実現【国立大学を含む大学・短大進学率(%)を向上させる】	○%	30	21	30	44	30	37	30	27	30	30